

第3学年題材指導計画

きれいなひびきを見つけて合そうしよう（8時間扱い）

1. 題材のねらい

互いの音を聴きながら、拍の流れに乗って旋律を表現することができるようにする。
楽器の音色や声の重なりを感じ取りながら、聴いたり表現を工夫したりすることができるようにする。

2. 教材について

(1) はっぱとそよ風 作曲 岡部 栄彦

<学習指導要領第3・4学年の内容との関連> A(1)ア, A(1)イ, A(2)イ, A(3)イ
二声の重奏, 合奏に適した楽曲。同音のリズムと動きの多い高声部は風に踊る葉の様子を, また, 低声部は, そよ風の感じをあらわしたものであろう。軽やかなイメージとレガートさを感じる二つの旋律の気分は, 題名からも子どもたちのイメージをとらえやすく, 演奏の仕方を工夫できる。また, 新しいリコーダーの運指(ファ・ミ)が含まれ, これまでのリコーダー学習の続きとしても好適な教材である。互いの音を聴き合いながら重奏に取り組み, リコーダーによる二声の美しい重なりを感じ取りながら, 演奏能力を高めていくようにしたい。

(2) あわてんぼうの歌 まどみちお作詞/外国曲

ゆかいな木きん 作詞 小林 純一/アメリカ民謡 選択教材

<学習指導要領第3・4学年の内容との関連> A(1)ア, A(1)イ, A(2)イ, A(3)イ, A(4)ア, B(1)イ

どちらの楽曲も, 主旋律は を中心にした楽曲構成で, 全くリズムの進行が同じ2曲。また, 旋律は, 順次進行と跳躍音程を中心にして構成され, リズミカルな気分で歌う楽しさを味わわせてくれる。また, 読譜や視唱・視奏に親しんできた子どもたちが取り組みやすい, 八長調の1オクターブ内の音域で構成されている。軽やかなイメージの主旋律に, 副次的旋律, 低音を加えた簡単な合奏形態の編曲を生かし, 音の重なりを生かした演奏やリズム伴奏, そのほかの副次的旋律を工夫することもできる。また, どちらの楽曲も歌詞がユーモラスで, 子どもたちがイメージをとらえやすい。「お話を音楽で楽しもう」や「音の重なりを見つけて演奏しよう」で学習したように, 台詞を入れたりほかの楽器と歌を重ねて響きの広がりを感じ取ったりすることにも適した教材である。これまでの学習を生かしながら, 美しいアンサンブルに仕上げたり, 自分たちの音楽表現を楽しんだりするようにしたい。

(3) 二人でおどりましょう 作曲 フンパーディンク

<学習指導要領第3・4学年の内容との関連> B(1)イ

歌劇「ヘンゼルとグレーテル」の中で, 留守を預かった二人が, なかなか戻ってこない両親を待ちかねて, 退屈しのぎに踊る場面で歌われる二重唱である。歌声とオーケストラが織りなす美しい響きを味わい, 歌声と楽器の音が重なり合う響きの広がりを感じ取るようにしたい。

(4) パフ 作詞 英龍 明子/作曲 ピーター ヤーロウ・レナード リプトン

<学習指導要領第3・4学年の内容との関連> A(1)ア, A(1)イ, A(2)イ, A(3)イ

この曲は1963年, 当時の人気フォークグループ, ピーター ポール アンド マリーによって歌われた。原曲は, 童話風の内容をもつ歌詞で, ジャッキー ペーパー少年と, 海に住む不思議な竜との触れ合いを描いている。親しみやすい主旋律に対して和声的に響きを与えるパート, 対位的な動きで主旋律を飾るパート, 響きを支える低音のパート, リズム伴奏のパートで構成されており, 充実した合奏の響きを楽しむことができるように編曲されている。また, リコーダーの新しい運指(レ・ド)を扱い, まとめの学習にも好適である。これまでの学習を生かして, 子どもたちが楽器を自由に選択し, 美しく響き合う楽器の音色の重なりを感じ取ったり, 互いに聴き合ったりしながら, 表現を工夫していきたい。

3. 題材の評価規準

	ア 音楽への 関心意欲態度	イ 音楽的な感受や 表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価規準	声や音が重なり合う響きに関心を持ち, 進んで表現しようとしている。	声や音が重なり合う響きを感じ取って, 演奏の仕方を工夫している。	互いの音を聴きながら, 重なり合う音の響き合いに気を付けて演奏している。	声や音の重なり合う響きの広がりを味わいながら聴いている。

学習活動における 具体的評価規準	<p>リコーダーの新しい音(ド～ファ)の出し方に関心を持ち、進んで簡単な曲を練習しようとしている。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 何度も繰り返し練習 自ら教えてもらって 斉唱や簡単な合唱などによる歌唱表現に興味をもって、進んで歌おうとしている。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 友達を誘って 拍の流れを生かした身体表現</p> <p>重奏や簡単な合奏の中で、自分の演奏と友達の演奏を聴き合いながら、進んで器楽表現に取り組もうとしている。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 お互いの音を常に聴こうとして 楽器演奏を繰り返して練習</p> <p>音やリズムを組合せ、進んで簡単な旋律やリズム伴奏をつくって表現しようとしている。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 友達にアドバイスしながら ふさわしい伴奏の多様な試行</p>	<p>互いの音が重なり合う響きを感じ取って、楽器の組み合わせ方を工夫している。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 響き合う音へのこだわり 新しい重なりが発見、追求</p> <p>旋律の気分を感じ取って、演奏の仕方を工夫したりしている。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 強弱や曲の山を工夫した表現</p> <p>拍の流れを大切にした表現の工夫</p> <p>歌声や各パートの楽器の音が重なり合う響きを感じ取って、演奏の仕方を工夫している。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 みんなの音を聴いて奏法を工夫 グループ演奏の中での的確な発言</p>	<p>八長調の読譜に親しみ、簡単な旋律を視唱・視奏している。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 スムーズな読譜や視奏 友達に教えながら 旋律楽器や打楽器の基礎的な演奏技能を身に付けて、自分のパートを演奏している。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 常に正しい音程や奏法で友達に奏法をアドバイスして</p> <p>互いの音を聴き合いながら、バランスのよい表現になるよう、工夫して演奏している。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 常にみんなの音を聴いて演奏 常に音量を意識した奏法の工夫</p>	<p>歌声や合奏の響きの美しさや広がりや楽器の音色の特徴を味わいながら、音楽や友達の表現を進んで聴こうとしている。</p> <p>【Aと判断するキーワード】 真剣な聴き取り 観点に沿った的確な言葉での表現 たくさんのよさやアドバイス</p>

4. 指導と評価の計画(8時間扱い)

: 取り扱い項目

: 取り扱い重点項目

時	主な学習内容	具体的評価基準	学習指導要領との関連	内容のまとまりとの関連				評価方法等
				歌唱	器楽	創作	鑑賞	
1	<p>【はっぴとそよ風】</p> <p>リコーダーでミ・ファの運指を知る。 ・ファ・ミの運指練習をする。(個人・ペア) ・息の強さに気を付け、簡単な練習曲を演奏する。 読譜したり階名唱したりしながら、曲の感じをつかむ。</p>	ア -	A(3)イ					<p>行動観察 練習の様子 読譜チェック 発表 歌唱聴取 表情観察 発言 (グループ)</p>
	<p>・リズムや旋律の流れに気を付けて(主旋律)を読譜し、階名唱したりリコーダーで練習をしたりする。</p>	ア -	A(3)イ					
	<p>【あわてんぼうの歌/ゆかいな木きん】 曲全体の感じをつかむ。 ・範唱・範奏を聴き、曲の感じをつかむ。 ・リズム唱・リズム打ちをしたり、楽譜を見たりしながら、気付いたことを発表し合う。 ・伴奏に合わせて、歌詞唱や階名唱をする。 演奏したい曲を選び、グループごとに演奏す</p>	ア -	A(1)ア					

	<p>る楽器や人数を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲全体の感じや、副次的な旋律の流れを生かして、音を確かめながら楽器を選び、人数や役割を決めて練習する。 	イ -	A(2)イ										
2	<p>【はっばとそよ風】</p> <p>演奏の仕方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様子を想像したり、旋律の流れで気付いたりしたことを発表し合う。 ・様子を思い浮かべながら、旋律の感じにふさわしい演奏の仕方を工夫する。 <p>副次的な旋律と重ねて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ の読譜・階名唱し、難しいリズムを取り上げながらリコーダーで練習し、 と音を重ねて演奏する。(ペア練習) ・重なる音がそれぞれどんな様子を表しているか、気付いたことを話し合う。 ・ペアで、曲想を生かした演奏の仕方を工夫し、音の重なりを感じ取りながら重奏する。 	イ -	A(2)イ					読譜チェック 演奏聴取 練習の様子 発表					
3 4	<p>【あわてんぼうの歌 / ゆかいな木きん】</p> <p>選んだ楽器、役割・人数で、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで、互いの音を聴きながら、2拍子の拍の流れを生かしたバッテリーリズムの伴奏をつくる。 ・パートごとに集まって読譜・練習をする。互いの演奏を聴き合いながら、曲想や旋律の感じにふさわしい演奏の仕方を工夫し合う。 ・主旋律・副次的な旋律・歌唱・リズム伴奏のいくつかのパートで音を重ねて練習する。 ・互いの音を聴き合いながら、音の重なりを生かした演奏になるよう工夫し合う。 <p>合奏の仕方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな響きになっているか、選んだ楽器の組み合わせを確かめ合う。 ・いい音の重なりを見つけながら、旋律伴奏やリズム伴奏を工夫し合う。 ・互いの音を聴き合い、楽器の音の特徴や奏法に気を付けてグループ合奏する。 	ア -	A(4)ア	ウ -	A(1)イ	ア -	A(3)イ	イ -	A(2)イ				リズムづくり 読譜チェック 練習の様子 学習カード 自己評価 発言
5	<p>グループ同士で発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容、旋律の変化、曲想、2拍子の流れなどを工夫し合う。 ・互いの音を聴き合い、全体のバランスに気を付けて合奏を仕上げる。 ・互いの発表を聴き合い、気付いたことや自分の活動のふり返りを発表したりカードに記入したりする。 <p>【二人でおどりましょう】</p> <p>場面の様子を楽しく思い浮かべながら、歌声とオーケストラの響きを感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の場面を想像しながら、楽しく聴く。 ・オーケストラの楽器の響き合いを味わいながら聴く。 ・自分たちの合奏の工夫と比べながら、オーケストラと歌声の響き合いに気を付けて聴く。 ・気付いたことを鑑賞カードに記入する。 	イ -	A(2)イ	ウ -	A(3)イ	エ -	B(1)イ	エ -	B(1)イ				演奏聴取 発言 行動観察 自己評価 学習カード 身体反応
	<p>【パフ】</p> <p>曲全体の感じをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、 のパート(主旋律)を伸び伸 	ア -	A(1)ア										歌唱聴取 演奏聴取 楽器選択の様

6 7 8	<p>びと歌詞唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律の動きやリズムに気を付けながら、その旋律を読譜し、音を重ねて鍵盤ハーモニカで練習する。(ペア) ・ それぞれのパートの楽器を選択し、練習する。 ・ ・ の副次的な旋律、旋律伴奏のパートを知る。 ・ ・ ・ のリズム伴奏を知る。 ・ それぞれのパートの楽器はどれにするか、旋律やリズムの動き、曲想を生かして、楽器の組合せを工夫し合う。 ・ 演奏する役割や人数を決め、パートごとに練習する。 ・ 音の重なりを感じ取りながら、全体で合わせる。 ・ 合奏の工夫をする。 ・ それぞれのパートの演奏を聴き合い、音量や演奏の仕方についてアドバイスし合う。 ・ アドバイスを生かして、互いの音を聴き合い、音の重なりに気を付けながら練習する。 ・ 合奏を仕上げる。 ・ 重なり合う響きをよく聴き、音量に気を付けて、全体のバランスがよい合唱奏に仕上げる。 ・ みんなで合奏を楽しむ。 	ウ - イ - ウ - イ - イ - ウ -	A(1)イ A(2)イ A(3)イ A(2)イ A(2)イ A(3)イ					子 発言 練習の様子 ふり返りカード(自己評価)
-------------	---	--	--	--	--	--	--	-----------------------------------